

8月の農作物病虫害発生現況

(令和7年8月 13 日現在) 山口県病虫害防除所

1 巡回調査期間:8月6～8日

2 1か月気象予報(8月7日福岡管区気象台発表)

気温:低い 10%、平年並 30%、高い 60%

降水量:少ない 20%、平年並 40%、多い 40%

日照時間:少ない 20%、平年並 40%、多い 40%

3 発生現況

【イネ】

○いもち病(穂いもち)

発生現況(穂いもち:34 ほ場): やや少

初発生:8月6日(平年8月 10 日)萩市

ほ場調査:やや少 発生ほ場率 2.9%(平年 5.9%)、発病株率 0.6%(平年 1.1%)、発病穂率 0.0%(平年 0.1%)、被害度 0.0(平年 0.0)

発生現況(葉いもち:80 ほ場):やや少

ほ場調査:やや少 発生ほ場率 21.3%(平年 24.5%)、発病株率 5.7%(平年 10.4%)、発病度 1.4(平年 2.8)、病斑の最上位葉 2.6 葉(平年 2.6 葉)

今後の予想:やや少

予想の根拠: 現況発生量(－)、現況葉いもち発生量(－)、降水量は平年並か多い(+)

備考:上位葉に葉いもちが発生しているほ場は、直ちに防除を行う。穂いもちの防除を適期に実施する。粉剤・液剤は穂ばらみ後期及び穂揃期の2回行い、粒剤・パック剤は出穂前に施用する。

○紋枯病

発生現況:少

ほ場調査:少 発生ほ場率 4.8%(平年 11.5%)、発病株率 0.6%(平年 1.2%)、発病度 0.2(平年 0.3)

今後の予想:少

予想の根拠:現況発生量(－)、気温は高い(+)

備考:穂ばらみ中期(出穂前 14 日頃)の発病株率が 15～20%以上の場合に防除を行う。

○ごま葉枯病

発生現況:多

ほ場調査:多 発生ほ場率 38.1%(平年 12.8%)、発病株率 10.6%(平年 4.0%)、発病度 2.7(平年 1.0)

今後の予想:多

予想の根拠:現況発生量(+)、気温は高い、降水量は平年並か多い(+)

備考:穂いもちとの同時防除を行い、穂枯れが発生しないようにする。

○ツマグロヨコバイ

発生現況:やや少

ほ場調査:やや少 発生ほ場率 10.7%(平成 22.8%)、虫数 0.5 頭/10 株(平成 0.4 頭/10 株)、一部で多発ほ場が認められた。

○セジロウンカ

発生現況:やや少

ほ場調査:やや少 発生ほ場率 13.1%(平成 44.7%)、18.4 頭/10 株(平成 19.7 頭/10 株)、一部で多発ほ場が認められた。

県内3か所の予察灯誘殺数(7月6日～8月5日):やや少 8 頭(平成 158 頭)

今後の予想:平成並

予想の根拠:現況発生量(一)、気温は高い(+)

備考:中生種や飼料用米で防除の目安を超えるほ場(穂ばらみ中期までに株当たり 50 頭以上(成幼虫)のほ場)は褐変穂を生じる可能性があるため薬剤防除を行う。出穂した後のほ場では、防除の必要性は低い。

○トビイロウンカ

発生現況:平成並

ほ場調査:平成並 発生ほ場率 0%(平成 10.9%)、0 頭/10 株(平成 2.9 頭/10 株)

県内3か所の予察灯誘殺数(7月6日～8月5日):平成並 0 頭(平成 2.7 頭)

今後の予想:平成並

予想の根拠:現況発生量(±)、気温は高い(+)

備考:防除の目安は、8月中旬以降は株当たり成幼虫5頭以上である。

○コブノメイガ

発生現況:少

ほ場調査:少 発生ほ場率 6.0%(平成 31.9%)、被害葉率 0.0%(平成 0.6%)、20 回払い出し虫数 0.0 頭(平成 0.8 頭)

今後の予想:少

予想の根拠:現況発生量(一)、気温は高い(+)

備考:飛来日から予測される防除適期は8月 19 日～22 日および8月 27 日～29 日頃であり、出穂の遅いほ場では注意する。特に、葉色の濃いイネでは被害を受けやすい。

○斑点米カメムシ類

発生現況:多

出穂ほ場におけるすくい取り調査(38 ほ場):多 20 回当たり虫数 7.3 頭(平成 3.2 頭)、主なカメムシ類;ホソハリカメムシ 1.5 頭(平成 0.2 頭:多)、クモヘリカメムシ 0.6 頭(平成 0.5 頭:やや多)、イネカメムシ 1.1 頭(平成 1.2 頭:平成並)、シラホシカメムシ・トゲシラホシカメムシ 2.1 頭(平成 0.1 頭:多)、アカスジカスミカメ 1.5 頭(平成 0.9 頭:やや多)

県内3か所の予察灯誘殺数(7月6日～8月5日):多 6,322 頭(平成 1,889 頭)、内訳はクモヘリカメムシ 69 頭(平成 84 頭:平成並)、アカスジカスミカメ 5,352 頭(平成 1,483 頭:多)、ア

カヒゲホソミドリカスミカメ 530 頭(平年 222 頭:多)、ミナミアオカメムシ 73 頭(平年 41 頭:やや多)、イネカメムシ 298 頭(平年 58 頭:多)。

今後の予想:多

予想の根拠:現況発生量(+)、予察灯誘殺数(+)、気温は高い(+)

備考:穂揃期と穂揃期7日後の2回防除を徹底する。イネカメムシの発生が多いほ場では、防除適期である出穂期に遅れないよう、出穂期と出穂期7日後の薬剤防除を実施する。防除後もほ場での発生状況を確認し、カメムシ類の発生が認められる場合は、さらに7日後の追加防除を実施する。

粒剤で防除を行う場合は、液剤より1週間程度早く散布する。粒剤はイネカメムシ等の大型カメムシに対しては効果が劣るため、これらが多い場合は粉剤、液剤の使用が望ましい。

令和7年8月5日付け令和7年度農作物病虫害発生予察注意報第2号を参照。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>

【大豆】

○吸実性カメムシ類

発生現況:やや多

ほ場調査:平年並 発生ほ場率 41.2%(平年 40.7%)、0.3 頭/㎡(平年 0.3 頭/㎡)

県内3か所の予察灯誘殺数(7月6日～8月5日):やや多 134 頭(平年 91 頭)、内訳はイチモンジカメムシ 20 頭(平年7頭:多)、アオクサカメムシ 41 頭(平年 41 頭:平年並)、ミナミアオカメムシ 73 頭(平年 44 頭:やや多)。

今後の予想:やや多

予想の根拠:現況発生量(+)、気温は高い(+)

備考:子実肥大期(開花期後 45～50 日)の防除を実施する。散布後にもカメムシ類が発生する場合は、追加防除(開花期後 60 日頃)を実施する。

○ハスモンヨトウ

発生現況:平年並

ほ場調査:少 発生ほ場率 0%(平年 12.6%)、1a 当たり白変か所数 0 か所(平年 0.2 か所)

県内5か所フェロモントラップ誘殺数(7月 11 日～8月 10 日):やや多 3,572 頭(平年 2,968 頭)

今後の予想:平年並

予想の根拠:現況発生量(ー)、フェロモントラップ誘殺数(+)、気温は高い(+)

備考:防除の目安は、白変葉の発生か所数が 1a 当たり5か所以上。中～老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

○ウワバ類等のチョウ目

発生現況:平年並

ほ場調査:平年並 発生ほ場率 70.6%(平年 72.7%)、0.7 頭/㎡ (平年 1.0 頭/㎡)

今後の予想:平年並

予想の根拠:現況発生量(±)、気温は高い(+)

備考:発生の主体はオオタバコガ、ウワバ類。ほ場をよく確認し、発生が多い場合は防除を行う。

【果樹全般】

○カメムシ類(クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)

発生現況:少

県内4か所の予察灯誘殺数(7月6日～8月5日):少 35 頭(平年 458 頭)

県内4か所のフェロモントラップ誘殺数(7月 11 日～8月 10 日):少 5頭(平年 6,619 頭)

今後の予想:少

予想の根拠:現況発生量(－)、気温は高い(+)